

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和七年十月～十二月分)

選者 高山俳壇 高野 悠子 先生

特選 天 生き生きと若き移住の冬構 埼玉県 小林 美峰

冬ごもりの用意をきびきびと立ち働く若人の生活環がうまく表現されています。

特選 地 主役兄快気祝や冬日和 千葉県 土田 宏美

盛況な長兄快気祝日「喜ばる様」が目に

特選 人 どの車庫もシルバーマーク山の栗 群馬県 岡本 政彦

世の中の有り様が反映された山間の佇まいが素直に描写されている。

入選 西行のお手植の木や帰り花 三重県 西尾 泰一

入選 星月夜素焼きに残る化粧塩 岩手県 小山 尚宏

入選 八十路旅行き着く先の一茶館 山梨県 阿部 守将

入選 やがて霧降りて来そうな一茶の地 新潟県 金子 加津久

入選 湯に浸り「はあ」と声出る秋の雨 群馬県 竹渕 洋子

入選 先駆けの櫓田なりや村の角 群馬県 安齊 和子

入選 北風に赤い葉黄の葉踊り行く 群馬県 竹渕 千恵子